

宮 城 県 の 経 済 動 向

令和5年第1四半期

(1月～3月期)

I 概況

令和5年第1四半期（1～3月期）の宮城県の経済動向について、指標別にみると以下のとおりとなっている。

- ・ 生産は鉱工業生産指数が4期ぶりの低下となった。
- ・ 住宅投資は持家の減少により2期連続の減少となった。
- ・ 公共投資は都道府県などの発注工事が減少したことにより、2期連続の減少となった。
- ・ 個人消費では、百貨店・スーパー販売額は4期連続の増加、コンビニエンスストア及び専門量販店を加えた合計販売額（参考値）は5期連続の増加となった。乗用車新車登録・届出台数は普通車や小型車の増加により3期連続の増加となった。仙台市消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は7期連続の上昇となった。
- ・ 雇用では、有効求人倍率が5期連続の上昇となり、新規求人倍率が3期ぶりの低下となった。所定外労働時間は9期ぶりの減少、実質賃金指数は2期ぶりの上昇、雇用保険受給者実人員は8期連続の減少となった。
- ・ 企業倒産件数は、2期連続の増加となった。

主要経済指標の推移（前期比（差），前年同期比）

（単位：％，ポイント）

		令和3年				令和4年				令和5年
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
生産	鉱工業生産指数 ※1 (前期比)	1.0	5.3	4.8	0.2	▲ 5.7	4.4	14.8	0.0	▲ 18.8
住宅投資	新設住宅着工戸数 (前年同期比)	7.0	▲ 6.4	22.9	28.4	17.6	5.7	14.2	▲ 1.9	▲ 0.1
公共投資	公共工事請負金額 (前年同期比)	▲ 14.7	▲ 21.3	▲ 41.8	▲ 28.0	▲ 41.8	▲ 4.2	2.0	▲ 32.1	▲ 20.4
個人消費	百貨店・スーパー販売額 ※2 (前年同期比)	▲ 4.0	2.6	▲ 2.6	▲ 1.5	▲ 0.7	0.2	1.8	1.7	2.8
	コンビニエンスストア販売額 (前年同期比)	▲ 2.0	3.2	1.0	0.2	0.3	2.9	3.0	4.4	4.0
	家電大型専門店販売額 (前年同期比)	5.0	2.3	▲ 3.7	▲ 4.7	1.4	▲ 0.8	▲ 3.0	6.7	▲ 0.9
	ドラッグストア販売額 (前年同期比)	0.1	3.1	5.2	5.2	6.9	5.9	7.9	10.9	8.0
	ホームセンター販売額 (前年同期比)	7.3	▲ 3.3	▲ 2.5	▲ 1.4	▲ 4.3	▲ 2.3	▲ 1.4	1.2	▲ 2.1
	計 ※3 (前年同期比)	▲ 0.9	2.2	▲ 0.5	▲ 0.3	0.7	1.5	2.5	4.1	3.3
	乗用車(含軽)新車登録・届出台数 (前年同期比)	▲ 0.6	12.0	▲ 18.5	▲ 20.0	▲ 17.1	▲ 6.2	8.8	8.6	10.1
	仙台市消費者物価指数 ※4 (前年同期比)	▲ 0.7	▲ 0.6	0.4	0.9	1.3	2.6	3.5	4.4	4.1
雇用	有効求人倍率 ※5 (前期差)	0.05	0.06	0.06	0.00	0.01	0.01	0.03	0.03	0.01
	新規求人倍率 ※5 (前期差)	0.02	0.12	0.05	0.04	0.04	▲ 0.02	0.01	0.05	▲ 0.04
	所定外労働時間 ※6 (前年同期比)	5.7	41.8	35.3	6.3	12.5	0.6	3.5	12.8	▲ 4.2
	実質賃金指数 ※6 (前年同期比)	▲ 0.1	6.4	2.3	6.2	2.4	▲ 6.4	5.3	▲ 7.3	0.8
	雇用保険受給者実人員 (前年同期比)	6.0	▲ 3.2	▲ 18.3	▲ 15.6	▲ 7.9	▲ 6.4	▲ 1.0	▲ 1.5	▲ 1.6
企業倒産	企業倒産件数 (前年同期比)	▲ 34.5	▲ 62.2	▲ 20.0	▲ 11.8	73.7	21.4	0.0	73.3	24.2

※1 平成27年＝100。

※2 全店舗比較による。

※3 各公表値(端数処理済)の合算による概算値(参考)。

※4 令和2年＝100。生鮮食品を除く総合指数。

※5 単位はポイント。

※6 令和2年＝100。事業所規模30人以上、製造業。実質賃金は現金給与総額。

II 主な指標の動き

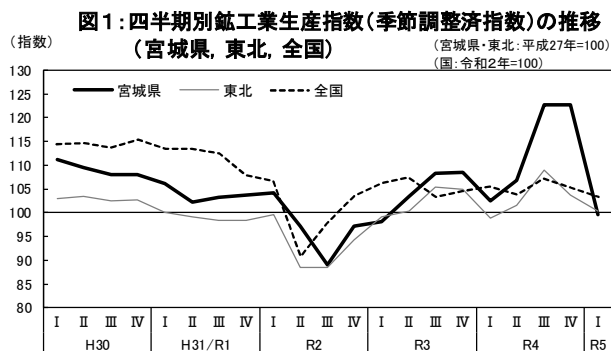
1 生産

○ 鉱工業生産指数

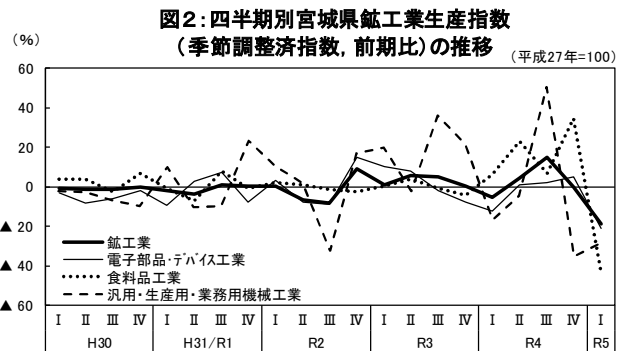
令和5年第1四半期（1～3月期）の鉱工業生産指数（季節調整済）は99.6（平成27年=100）で、前期比が18.8%の低下となり、4期ぶりの低下となった（図1、図2）。

ウェイトの大きい業種を中心に前期比をみると、食料品工業は43.2%低下し、5期ぶりの低下となった。汎用・生産用・業務用機械工業は28.2%低下し、2期連続の低下となった。電子部品・デバイス工業は21.1%低下し、4期ぶりの低下となった（図2）。

前年同期比（原指数での比較）では3.3%の低下となり、8期ぶりの低下となった。



(資料：宮城県統計課)



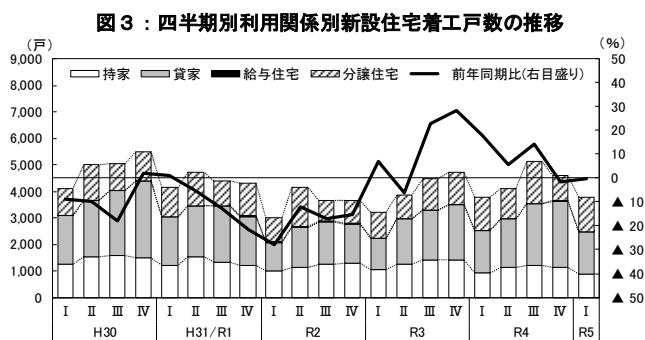
(資料：宮城県統計課)

2 住宅投資

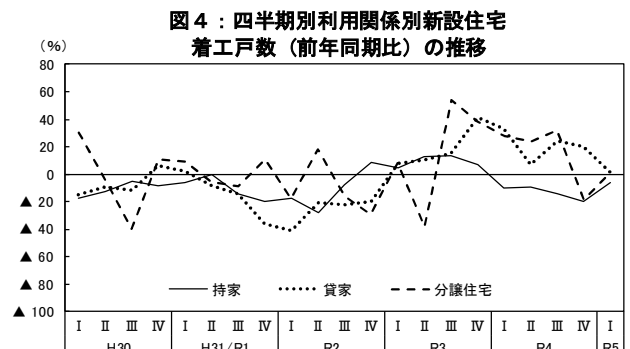
○ 新設住宅着工戸数

令和5年第1四半期（1～3月期）の新設住宅着工戸数は3,765戸で前年同期比が0.1%の減少となり、2期連続の減少となった（図3）。

利用関係別に前年同期比をみると、持家（建築主が自分で居住する目的で建築するもの）は6.1%減少し、5期連続の減少となった（図4）。分譲住宅（建売または分譲の目的で建築するもの）は1.9%増加し、2期ぶりの増加となった。貸家（建築主が賃貸する目的で建築するもの）は1.6%増加し、9期連続の増加となった。



(資料：国土交通省)



(資料：国土交通省)

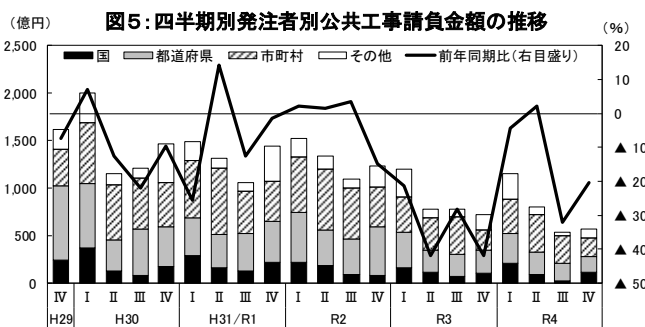
3 公共投資

○ 公共工事請負金額

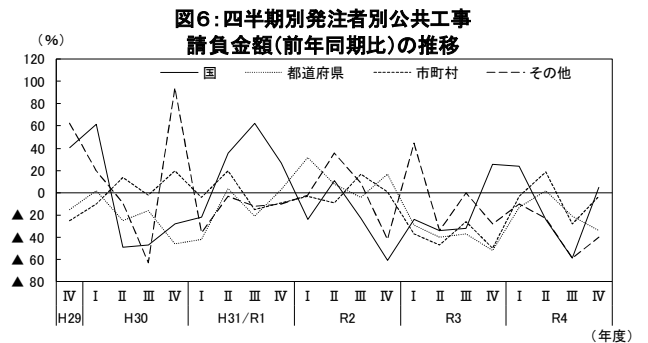
令和4年度第4四半期（1～3月期）の公共工事請負金額は570億4百万円で、前年同期比が20.4%減少し、2期連続の減少となった（図5）。

発注者別に前年同期比をみると、都道府県は33.8%減少し2期連続の減少となった。その他（独立行政法人等、地方公社、その他）は39.7%減少し、7期連続の減少となった。市町村は3.4%減少し2期連続の減少となった。国は4.4%増加し3期ぶりの増加となった（図6）。

※ 公共工事請負金額は、年度をベースにしているため、動向や資料は年度を基準としています。



(資料：東日本建設業保証(株))



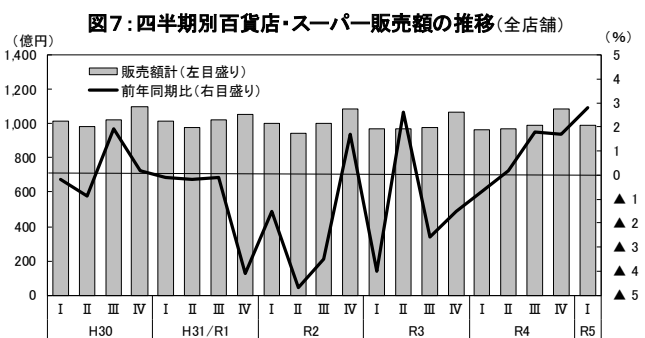
(資料：東日本建設業保証(株))

4 個人消費

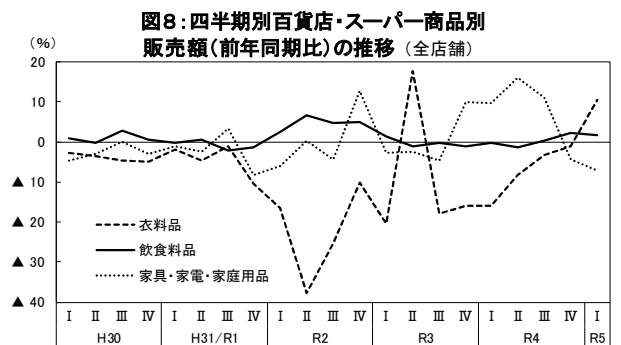
(1) 百貨店・スーパー販売額

令和5年第1四半期（1～3月期）の百貨店・スーパー販売額は989億27百万円で、全店舗比較の前年同期比は2.8%増加し、4期連続の増加となった（図7）。既存店比較の前年同期比は1.9%の増加となり、3期連続の増加となった。

商品別に前年同期比（全店舗比較）をみると、飲食料品は1.7%増加し、3期連続の増加となった。身の回り品は23.0%増加し、6期連続の増加となった。衣料品は10.6%増加し、7期ぶりの増加となった。その他商品（医薬品、化粧品、洗剤、書籍等）は2.9%増加し、6期連続の増加となった。食堂・喫茶は28.1%増加し、8期連続の増加となった。家具・家電・家庭用品は7.2%減少し、2期連続の減少となった（図8）。



(資料：東北経済産業局)

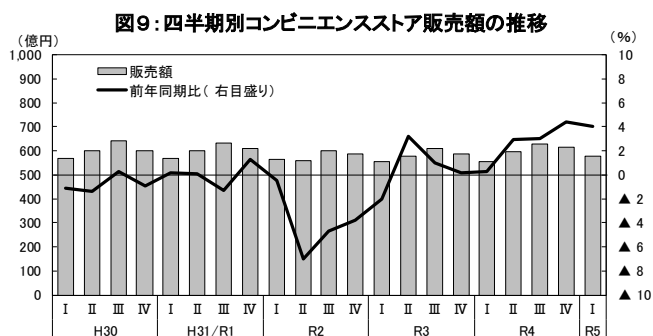


(資料：東北経済産業局)

※ 平成27年7月、令和2年3月に調査対象事業所の見直しが行われたため、前年同期値をリンク係数で補正(14頁参照)

(2) コンビニエンスストア販売額

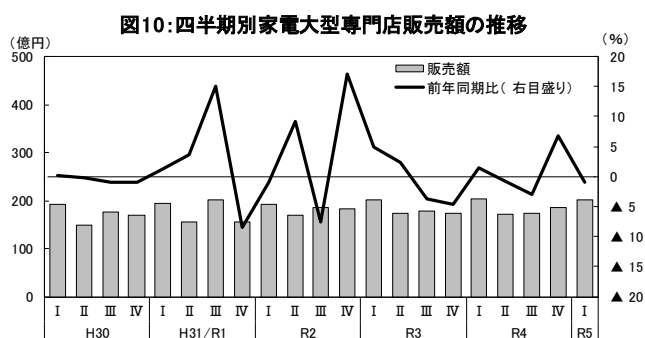
令和5年第1四半期（1～3月期）のコンビニエンスストア販売額は577億25百万円で、前年同期比は4.0%増加し、8期連続の増加となった（図9）。



(資料：東北経済産業局)

(3) 家電大型専門店販売額

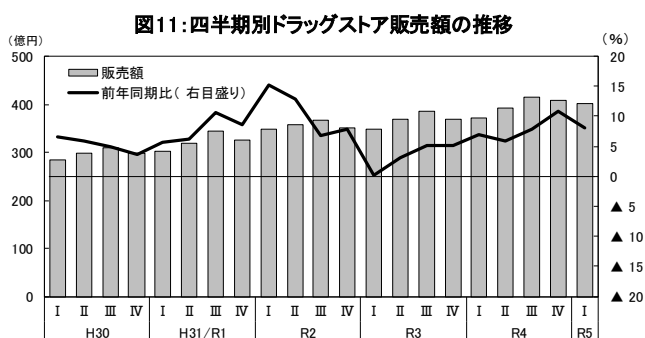
令和5年第1四半期（1～3月期）の家電大型専門店販売額は202億10百万円で、前年同期比は0.9%減少し、2期ぶりの減少となった（図10）。



(資料：東北経済産業局)

(4) ドラッグストア販売額

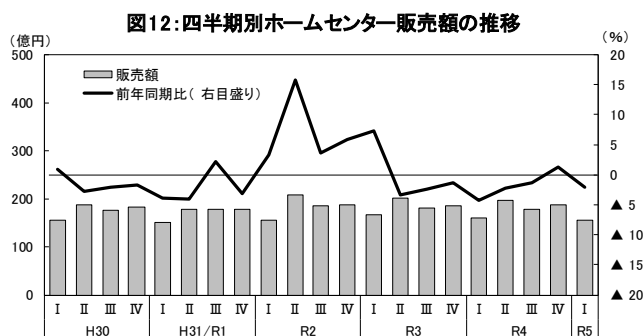
令和5年第1四半期（1～3月期）のドラッグストア販売額は402億27百万円で、前年同期比は8.0%増加し、28期連続の増加となった（図11）。



(資料：東北経済産業局)

(5) ホームセンター販売額

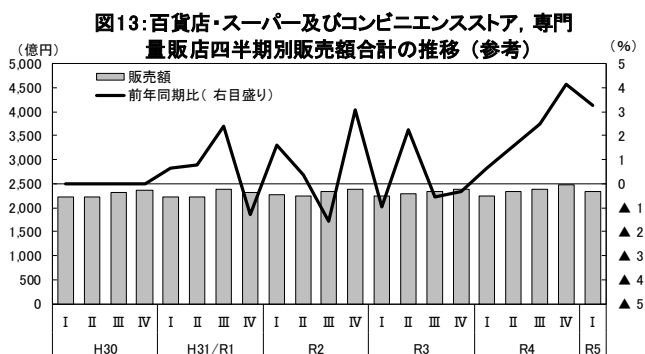
令和5年第1四半期（1～3月期）のホームセンター販売額は156億20百万円で、前年同期比は2.1%減少し、2期ぶりの減少となった（図12）。



(資料：東北経済産業局)

(6) 百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額（参考）

令和5年第1四半期（1～3月期）の百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額の合計（概算による参考値）は2,327億9百万円で、前年同期比は3.3%増加し、5期連続の増加となった（図13）。



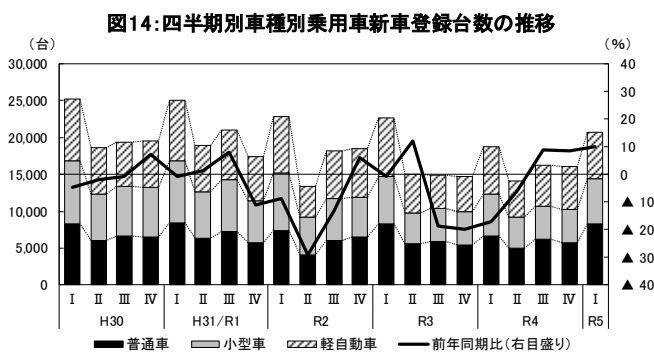
(資料：東北経済産業局)

※(1)～(5)各公表値(端数調整済)の合算による概算値。

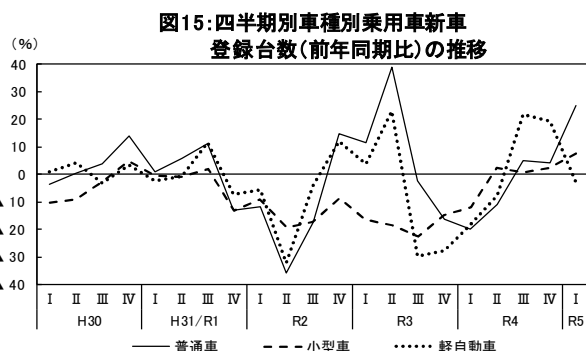
(7) 乗用車新車登録及び届出数

令和5年第1四半期（1～3月期）の軽自動車新車届出数を含めた乗用車新車登録台数は2万663台で、前年同期比が10.1%増加し、3期連続の増加となった（図14）。

車種別に前年同期比をみると、普通車は25.2%増加し、3期連続の増加となった。小型車は7.5%増加し、4期連続の増加となった。軽自動車は2.9%減少し、3期ぶりの減少となった（図15）。



(資料：東北運輸局「東北運輸局管内の新車登録・届出数」、全国軽自動車協会連合会)

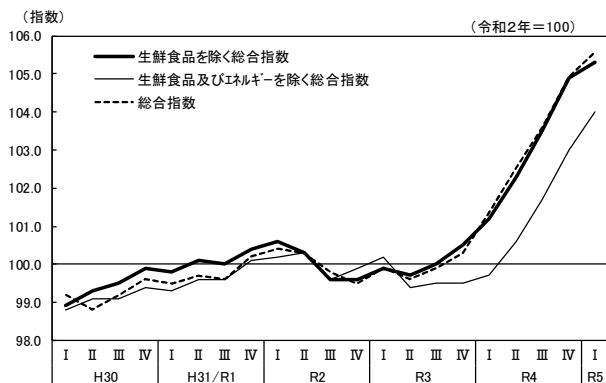


(8) 仙台市消費者物価指数

令和5年第1四半期（1～3月期）の仙台市消費者物価指数（令和2年=100）は、生鮮食品を除く総合指数は105.3で、前期比が0.4%上昇し、7期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は104.0で、前期比が1.0%上昇し、5期連続の上昇となった。総合指数は105.6で、前期比が0.7%上昇し、7期連続の上昇となった（図16）。

前年同期比では、生鮮食品を除く総合指数は4.1%上昇し、7期連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は4.3%上昇し、4期連続の上昇となった。総合指数は4.1%上昇し、7期連続の上昇となった。

図16: 四半期別仙台市消費者物価指数の推移



(資料：宮城県統計課)

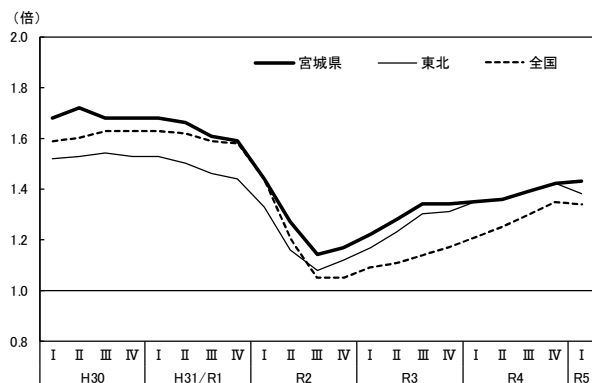
5 雇用

(1) 求人倍率

令和5年第1四半期（1～3月期）の有効求人倍率（季節調整値、1～3月平均値）は1.43倍で、前期差は0.01ポイント上昇し、5期連続の上昇となった（図17）。

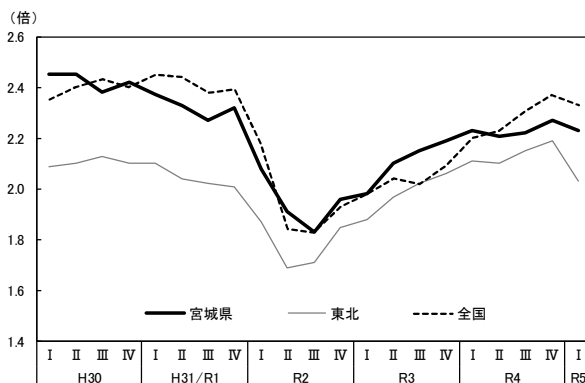
新規求人倍率（季節調整値、1～3月平均値）は2.23倍で、前期差は0.04ポイント低下し、3期ぶりの低下となった（図18）。

図17: 四半期別有効求人倍率(季節調整値)の推移



(資料：宮城労働局)

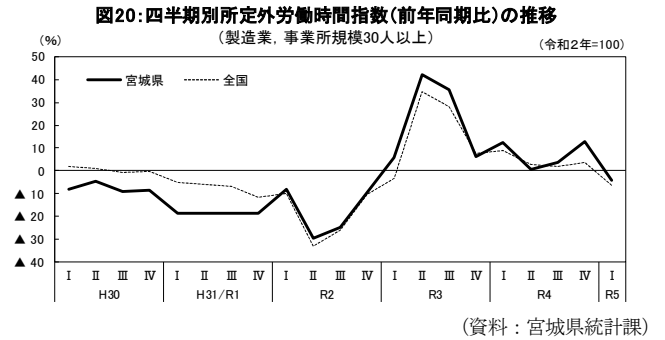
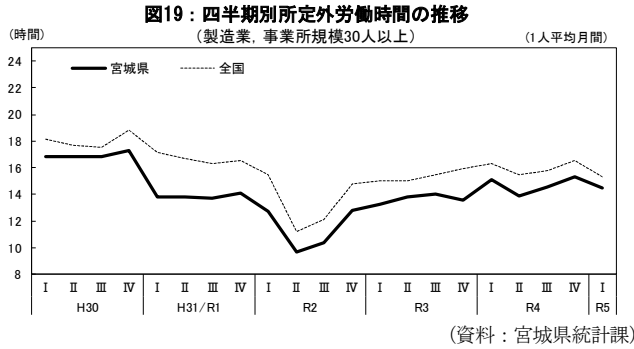
図18: 四半期別新規求人倍率(季節調整値)の推移



(資料：宮城労働局)

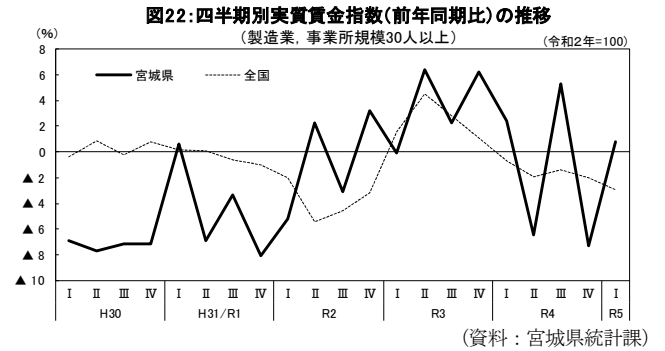
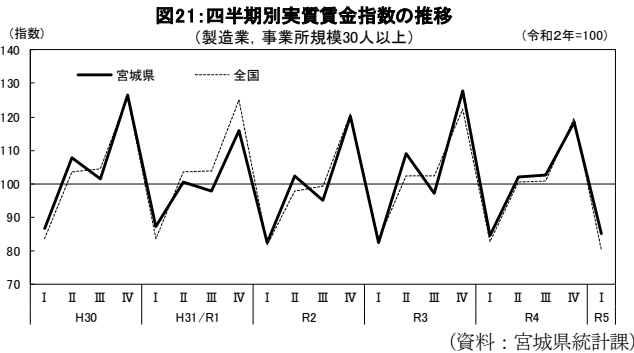
(2) 所定外労働時間

令和5年第1四半期（1～3月期）の所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間）は14.5時間で（図19）、前年同期比（指数、令和2年=100）は4.2%減少し、9期ぶりの減少となった（図20）。



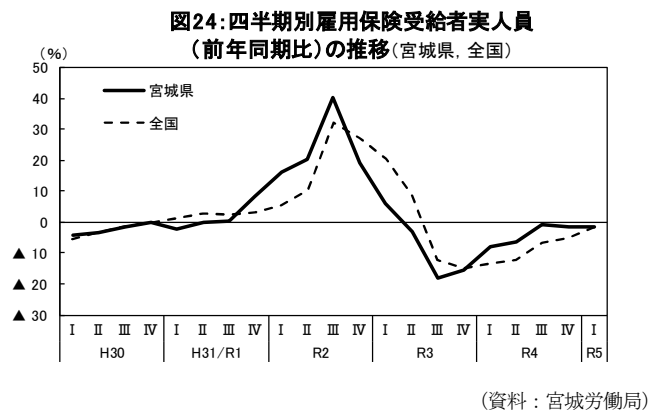
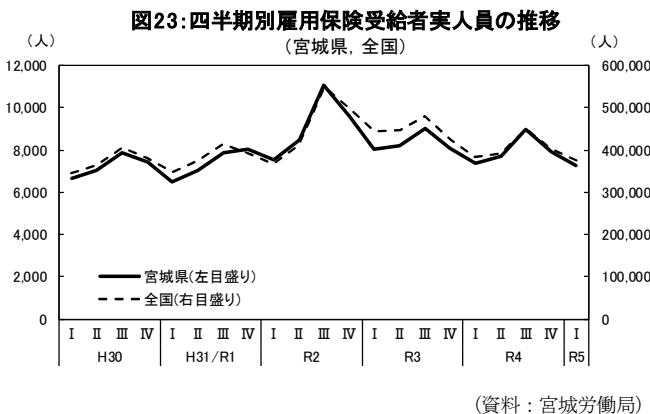
(3) 実質賃金指数

令和5年第1四半期（1～3月期）の実質賃金指数（製造業、令和2年=100、事業所規模30人以上）は85.1で（図21）、前年同期比は0.8%上昇し、2期ぶりの上昇となった（図22）。



(4) 雇用保険受給者実人員

令和5年第1四半期（1～3月期）の宮城県の雇用保険受給者実人員は7,255人で（図23）、前年同期比は1.6%減少し、8期連続の減少となった（図24）。



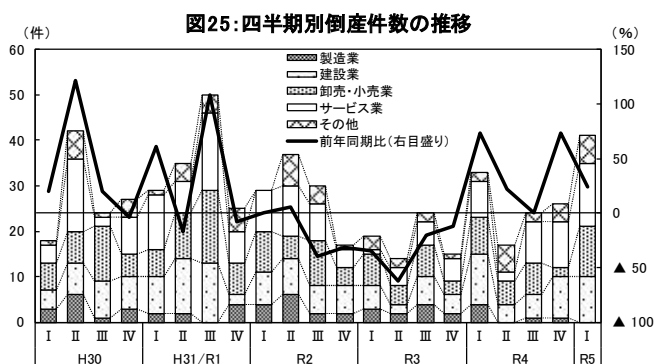
6 企業倒産

令和5年第1四半期（1～3月期）の宮城県内の企業倒産（負債総額1千万以上）の件数は41件で、前年同期比は24.2%増加し、2期連続の増加となった（図25）。

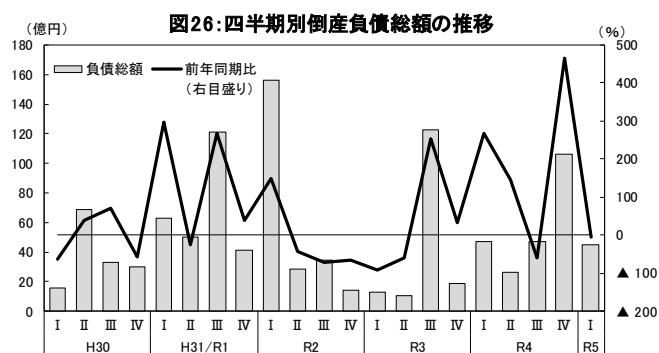
負債総額は44億99百万円で、前年同期比は4.5%減少し、2期ぶりの減少となった（図26）。

これらのうちの不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ（赤字累積））の件数は31件で、前年同期比は10.7%増加し、6期連続の増加となった。件数の構成比は75.6%で、前年同期より9.2ポイントの減少となった。

大型倒産（負債総額10億円以上）は1件発生した。



(資料：(株)東京商工リサーチ)



(資料：(株)東京商工リサーチ)